

番号	5	事業名	街路	市町村名	上田市	路河川名	(都)中常田新町線	箇所名(ふりがな)	常田(ときだ)		
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	○沿道には、学校・病院・大型商業施設等が建ち並び、多くの人々が当該路線を利用していたが、歩道が未整備であったため、自動車・自転車・歩行者が錯綜し、危険な状況であった。 ○平成21年度に、当該区間を事業化。						②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)		評価	
	○安全で快適な歩行者空間の確保、防災機能及び景観の向上、沿道の高度な土地利用や良好なまちなみの形成。 ○上田市中心市街地と一般国道18号を結ぶ幹線道路の整備。							○道路空間が広くなり、電柱や電線が無くなり景観が良くなった。 ○歩道がインターロッキングになり、明るくなった。 ○自転車帯が設置され用途がより明確になり、歩行者が安心・安全に歩行できるようになった。 ○上常田交差点信号機が歩車分離式になり、自転車・歩行者が安心・安全に交差点を通過できるようになった。		A	
事業目的	○安全で快適な歩行者空間の確保、防災機能及び景観の向上、沿道の高度な土地利用や良好なまちなみの形成。 ○上田市中心市街地と一般国道18号を結ぶ幹線道路の整備。						③施設の維持管理状況	施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)		評価	
事業概要	当初工期	平成21年度～平成25年度	費用対効果(当初時)	2.30	事業費(千円)	財源内訳(千円)				○道路の維持管理については、道路パトロール等で適切に実施している。 ○地域のボランティア活動(清掃等)が積極的に行われている。	A
	最終工期	平成21年度～平成29年度	費用対効果(評価時)	1.19	上段:当初/下段:最終( )は国補事業分以内	国庫	その他	県債	一般財源		
	当初計画内容(主な工種)	道路改築工 L=517m、W=6.0(16.0)m			900,000	495,000	90,000	28,300	286,700	地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)	評価
	最終事業実績(主な工種)	道路改築工 L=672m、W=6.0(16.0)m			2,050,000	1,195,243	205,000	188,285	461,472		
事業期間の延長、短縮理由と分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人家連担地域で事業所及び住宅密集地の物件移転に時間を要した。</li> <li>・当初想定していなかった無電柱化工事を追加した。また、県道と市道の振り替えを行い、県道が国道141号まで延伸したことから、事業区間を国道141号交差点まで延伸した。</li> <li>・以上の理由により、事業期間を4年延長している。</li> </ul>						④地域住民等の評価	事業実施後、上田東高校や周辺住民の方にインタビューを行い、下記のような回答をいただいている。 ・生徒が整然と通学でき、安心して見守ることができるようになった。また、生徒のマナーに対する苦情が減った(上田東高校長)。 ・上田東高等学校陸上部の特別活動で行うランニングが安全に行えるようになった(上田東高校長)。 ・以前は歩行者と車が混在する危険な道路だったが、安心してベビーカーでも買い物に行けるようになった(地域の方)。 ・歩道が整然となり、ゴミも減った(地域の方)。			
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初、電線事業者との協議が整わず、無電柱化を実施しない方針で事業化したが、本路線は上田市中心部の幹線道路であり、安全で快適な通行空間を確保する必要があることから、再度事業者と協議を行い、街路整備に合わせた無電柱化を実施することとなった。</li> <li>・県道と市道の振り替えを行い、県道が国道141号まで延伸したことから、事業区間を国道141号交差点まで延伸した。</li> <li>・主に以上の理由から、事業費が増加している。</li> </ul>							改善措置の必要性			
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成)				評価		今後の取り組み及び同種事業への活用と課題	○今後、街路事業を実施する際は、植樹柵を設置する等、グリーンインフラの導入を推進する。 ○現道拡幅と並行して無電柱化工事を実施する場合、まとまった用地ストックが必要となるため、より計画的な用地取得が必要となる。 ○当初計画段階で道路占用埋設物の位置の把握に努めているが、想定外の位置から道路占用埋設物が出てくることがあったため、占用事業者と密な調整が必要となる。			
	直接的効果(定量的・定性的)	○交通の利便性 道路の拡幅及び付加車線の設置により、円滑な交通が確保された。				B		○交通の安全性 車道の拡幅、歩道・自転車通行帯の設置により、安全な道路空間が確保され、事故件数が減少傾向となっている。  【交通事故件数の推移】 開通前5ヶ年(H25～H29)の平均事故件数 : 4.2件/年 開通後3ヶ年(H30～R2)の平均事故件数 : 2.3件/年			
		○災害の防止 無電柱化により、電柱・電線類倒壊による災害が防止された。									
間接的効果(定量的・定性的) ※事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	○交通機能以外の道路機能としての効果  両側に歩道を有する街路事業整備により円滑な交通機能の確保といった直接的効果以外に、無電柱化を実施したことから景観面についても良好な都市環境が確保された。また、幅広の道路幅員により、大規模地震発生等の有事の際における延焼防止や緊急避難路としての機能が向上するなど、周辺地域の都市防災機能の向上に寄与している。				建設部公共事業評価委員会の意見	上田市街地の円滑な交通が確保されるとともに、歩行者の安全の確保や無電柱化による良好な景観の確保が図られており、事業目的が達成され、地域住民の評価も高いことなどから総合評価Aが妥当と判断する。	総合評価	A			
						長野県公共事業評価委員会の意見	建設部公共事業評価委員会の意見を妥当と判断する。	評価監視委員会意見	妥当		
								評価の決定	A		